

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 徳永 みき 所属： 鹿屋市立寿小学校 記録日： 平成28年 2月10日

キーワード： 安心して伝え合える関わりを目指して～交流学級での取組～

「知的障害」「学習指導」「思いを伝える」「穴埋め式ノートテイク」「漢字の予測変換を用いた日記」

【対象児の情報】

○学年

小学4年生（特別支援学級在籍）

○障害名

知的障害

○学習形態

国語・算数→支援学級 その他の教科→交流学級

社会と理科は、生活単元学習の位置付け。

生活単元学習の目標「①身近な社会生活に適応するための基礎的な知識を身につける。②友達との関わりの中で、適切なコミュニケーション能力を身につける。」

○障害と困難の内容

- ・ 注意集中に課題が大きく、疲れやすい。授業中に居眠りをしてしまうこともある。
- ・ 読み書きに困難が大きく、課題の量が多いと、最初から取り掛れないこともある。
- ・ 他の子より絵が下手、漢字が書けないなどコンプレックスが強くある。
- ・ 直接話すより、電話や手紙、日記の方が、自分の気持ちを素直に伝えることが多い。
- ・ 友達と関わりを持ちたいが、自信のなさやはずかしさから積極的に話しかけられない。
- ・ 始業時間に間に合わないことが多く、本人も気にしているがなかなか改善しない。

【活動目的】

○当初のねらい

- 1 自信をつけ、安心して自分を出せる友達関係を築き、友達に伝えたいことを伝えられる。
- 2 学習内容に見通しをつけ、学習することに意欲を持つ。
- 3 整理整頓の方法や準備の仕方を知り、自分の物の管理を自ら行えるようになる。

○実施期間

平成27年5月～平成28年2月

○実施者

徳永 みき

○実施者と対象児の関係

交流学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・ 4月当初、友達作りを自分なりに模索し、友達にあげるためのイラストや折り紙でプレゼントを作ってきたが、渡せずに持ちかえってしまった。また、友達への手紙も、はずかしくて友達に見せることができなかった。自分の文章に自信が持てず、漢字を用いることができないことにコンプレックスをかかえていた。
- ・ 落ち着いて授業には参加しているが、疲れやすく、体調不良を訴えてくる日が多かった。ノートテイクは丁寧に行おうとするが、それに終始してしまい、教師の指示を聞き逃すこともあった。また、気分によるむらがあるため、特に板書量が多い時には、それだけでやる気を失う時があった。
- ・ 登校時間が10時を過ぎることもあり、生活リズムの改善、サポートが必要であった。時間割を自分で行う習慣ができておらず、忘れ物が多かった。

○活動の具体的内容

1 伝えたいことを伝えられるために

(1) 関係を支える

- ・「友達にいろいろ作ってあげたい。でもなんだかはずかしい。ぼくは他の友達より文を書くのが苦手だから自信がないし、〇〇くんより絵も上手じゃない。なんか友達の前に出るとはずかしくなっちゃう。」とある日電話で語ってくれた。本人の思いは担任から伝えることを確認し、学級のみみんなと話をする授業を設定した。遠足の前日に書いた手紙を友達に渡せなかったエピソードをもとに、みんなと仲良くしたいと思っていること、文章に自信がなく手紙が渡せないでいる気持ちや、朝の登校時間について今頑張っていることなど本人の「思い」を伝えた。

①本人の思いについての聞き取り。

②担任から本人の思いについて伝え、自分たちにも同じような経験がないか学級全体で意見交換。

③学級全児童からA児に対して手紙を書いた。

- ・仲間意識を高めるために、「困ったことはみんなで解決・そして夢をかなえよう」を合言葉に、自分の夢発表、友達のいいところ探し、困ったことを誰でもみんなに相談できる時間を適宜設けた。
- ・支援学級で頑張っていることなどを交流学級で定期的に紹介した。

(2) 作文や漢字に対する苦手意識を軽減する

① 支援学級では、絵を描かせ想像を膨らませてから文章を組み立てていけるように、絵日記を週に2回程度、教師と一緒に書くようにした。

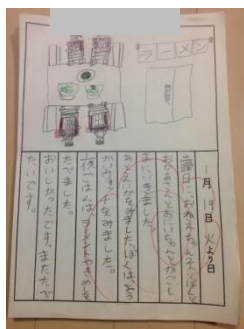


図1 週2回の絵日記

② 文章を教師に確認してもらおうと本人が安心して書き始めることが多いため、作文や標語作り際には、まずは付箋に書きたいことをメモした後、実際に書き始めさせるようにした。

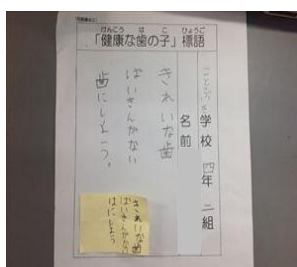


図2 付箋に記入後書いた標語

③ 漢字に関する苦手意識を軽減するために、漢字の予測変換を用いて書ける iPad で日記を提出するようにした。それを教師が印刷して綴った。

使用アプリ



図3 iPadによる日記

2 学習に意欲を持たせるために

(1) 授業参加を支える

- ・全体に、デジタル教材や、具体物、写真などをモニターで掲示。理科の実験結果や資料の確認をする時には、iPad で写真に撮り、Sketch アプリで写真にマークを付けて注目すべきことを明確にした。また、本人の iPad の上にストリーム機能で同じ写真を同期させ、机上で同じものが確認できるようにした。



- ・交通安全施設、防災施設マップ作りの学習では、他児童は地図上に場所をメモ、A児は iPad で写真を取るといった役割分担を設定した。その後、地図とA児の撮った写真を iPad 上で合わせていき、全体に提示した。本人の画像が全体で使用されることで、本人の興味関心を深める

図4 全体への提示

ことができた。



図5 校外での写真によるメモの様子



図6 全体へ示した防災マップ



(2) 焦点化して考える時間を確保する（穴埋め式ノートテイク）

- ・教師ははじめから穴埋め形式で板書し、学級児童は穴を埋めながらノートを書く。A児はそれを写真に撮り、iPad上で重要語句だけ記入する。教師が黒板を一通り書き終わるまで時間があるので、その時間に教科書から何が入るか考えさせることで内容にも意識させた。iPadで記入したものは後でプリントアウトし、ノートに貼り付けさせた。

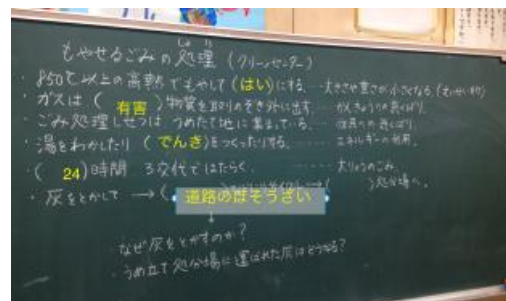


図7 iPadを用いた穴埋め式のノート

3 準備・時間を意識できるように

(1) 確認の方法を持たせる

① 持ってくる物の準備について

<1学期>

帰りの準備の時に、明日の時間割を確認し、教科ごとに必要な物の写真をリングフォルダーで綴じて持ち帰らせ、家庭ではそれを見ながら時間割を確認させるようにした。



図8 時間割調べ用の教科ごとのカード

<2学期・3学期>

明日の時間割を掲示する時に、その表を写真におさめさせ、家庭では、アプリ内の写真に印をつけていくことで時間割を確認させるようにした。



図9 児童が撮った時間割表

使用アプリ



写メモーる

② 持ち物の整理の仕方について

- ・全体に、準備（教科書、ノートの置き方）や、持ち帰るものを写真で撮り、それをテレビに投影し、提示した。また、教師のメッセージ、例えば「黒板に注目！」や「話し合いをやめてください」などの言葉も時々テレビに映し出し、注意喚起を行った。
- ・全体に、机の中の整理の仕方を写真で示した。また クラス全体でも時々確認を行った。特に、のりやはさみなど煩雑になるものはチャック付きの小袋にまとめて収納することを約束し写真で確認したり、写真に示した物以外の不要になったものはその都度持ち帰るように声かけを行ったりした。



図10 全体掲示の机の中の整理の例



図11 全体掲示の持ち帰る物の例

(2) 成果を視覚化する

児童自ら早起きしようという気持ちを引き出すため、朝何時に登校したかを「時メモ」というタイムカードアプリを使って記録を取った。最初は9時を目標としていたため、9時前登校の時には黄色、それ以降に登校の場合は赤色で区別させた。



図12 登校時間の記録

○対象児の事後の変化

- ・うれしい出来事があると自主的に日記を書いてくるようになった。日記には、友達と遊んで楽しかったことや、うれしかったことが書かれていた。友達への気持ちが綴られていることもあったので、日記に登場した友達にも日記を見せると、お互いに顔を見合わせ、にこりと笑っていた。
- ・「友達に『遊ぼう。』と自分から声をかけやすくなった。」と本人が話した。理由を聞くと、「よくわからないけど、話しやすい。みんなと縄跳びをしたいから。」と答えた。
- ・全体への表示で他児童に対してもわかりやすく、また同じものがA児は手元にはあることでより見やすく、授業に集中する時間が長くなった。また、iPadの穴埋め式ノートテイクで負担が軽減したことや、教科書を読む段階から大事なところを意識して読むことで、内容にも意識がいくようになってきた。
- ・帰りの会の時に、学習係として明日の時間割表を替える係になり、時間割表を写真に撮って帰るのが習慣化してきたため、忘れ物が少しずつ減ってきた。
- ・9時の目標を達成するため記録を行ったが、彼の登校時間が、朝の活動による移動が多い時間帯や授業最中に重なる為、ボタンを押すだけのアプリは時間もかからず、また、時計を正確に読めなくても時刻が自動で残るので、A児自ら記録を行うことができた。また、意識も高まってきたのか、始業時間に遅れず来ることも多くなった。

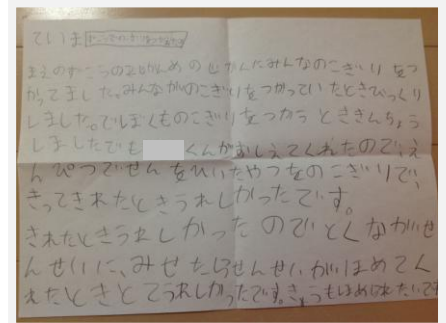


図13 友達に手伝ってもらってうまくできてうれしかったことを書いてきた日記

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- 1 友達を「すごい」と称賛できたり、失敗しても「どんまい」と笑って許せたりする仲間の中で、自分を出しても大丈夫という安心感が生まれてきたのではないか
 - ・以前は休み時間、友達から誘われるのをいつも待っていたが、最近では自分から「入れて。」と言えるようになった。2学期の遠足は、自分から「一緒に食べよう。」と友達に声をかけた。
 - ・「OOくんがボールをいつも取ってくれるんだよ。」「最近、お友達とけんかすることがなくなったよ。」と本人がうれしそうに話してくれた。
 - ・友達から「けん玉の師匠」と呼ばれ、こつを友達に教えながら遊ぶようになった。2学期のお楽しみ会では友達と一緒にけん玉をみんなの前で披露することができた。
 - ・帰りの会の「よかったことの発表」で、「OOくんが遊びに入れてくれてうれしかったです。」という発表ができるようになった。また、友達からも「牛乳をこぼした時A君がすぐにふいてくれました。」といった発表が聞かれ、お互いに伝えあう意識が広がった。
 - ・1学期には逃げ出していたリレーの練習に積極的に参加する姿が見られた。走った後「A君速いね。」とクラスの友達が声をかけていたので、お母さんにそのことを話すと、「以前遅いとばかりにされて、そ

れから運動することを嫌がるようになった。本人に自信が戻ったようでうれしい。」と話されていた。また、長縄練習では、大会に向けて自ら友達に声をかけて練習する姿も見られた。

2 ポイントを焦点化することで、見通しがつき、学習に対して意欲が出てきたのではないか

- ・理科や社会の授業中の居眠りがほとんどなくなった。
- ・穴埋めによるノートテイクで、内容を理解しようという意識が出てきた。また、最近では手書きでノートを取ろうとする意欲もみられる。
- ・学習への意欲が増し、都道府県を積極的に暗記し、テストで8割正答することができた。

3 方法を知ることで、自分でできる自信をつけ、自分のことは自分でという意識が生まれたのではないか

- ・帰りの会に「カードで確認する作業→時間割表を写真記録」と段階を追って明日の準備の方法を知らせることで、自分で準備しようとする意識が生まれてきた。
- ・みんなと同じ時間に登校したいという意識の高まりが見られ、11月以降は支援員の先生と登下校の練習を開始。3学期からは、母親とともに登校。時間内の登校が実現しつつある。

○エビデンス

1 について

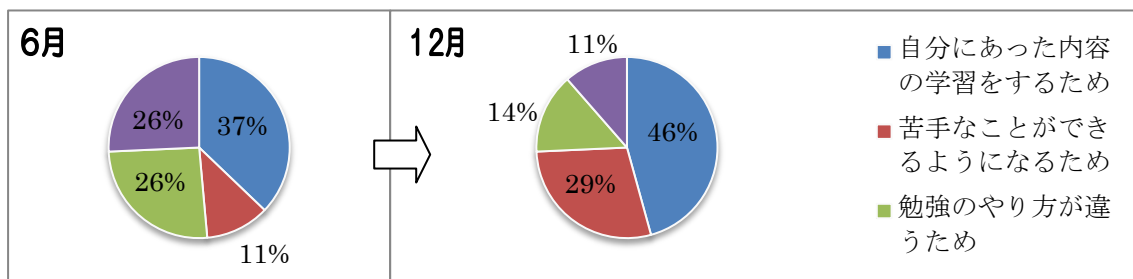
以下は、「思い」を伝える授業後、児童に書いてもらった手紙からの抜粋である。

「A君の思いがわからなくてごめんね。」「いつも、みんなをはげましたり、やさしくしてくれたりしてありがとう。」「ぼくは、Aくんと遊んだり、遊ぼうとさそってくれたりしてうれしかったよ。」「今日の話聞いてとてもうれしくて泣きそうになったよ。」「ぼくも四年生になって初めて発表に自信がもてました。ずっときんちょうしてぜんぜん発表できませんでした。」「Aくんがみんなにはずかしいのは、よくわかるよ。わたしもそうだから。」

A君の思いを受け止めるだけでなく、自分自身に置き換えて理解しようとする気持ちが表れている。その後の取組みを通して、子ども達のA君への理解の深まりがみられた。

<6月と12月に実施したアンケートより>

① なぜA君は支援学級で学んでいると思いますか。



その他に含まれる「ついていけないから」という回答から、「自分にあつた内容の学習をするため」「苦手なことができるようになるため」等の回答が増えたことから、A君は自分に合った学習に取り組むため支援学級で学習していると認識する児童が増えていることがわかる。

② A君に一言お願いします。(12月)

勉強する場所はちがうけど、いっしょにがんばろうね。
3学期もいっしょに遊んで、楽しい4年生生活にしようね。

学級児童の意識の高まり

- ・ A君に対する「よりそう気持ち」が感じられるメッセージが多くなった。

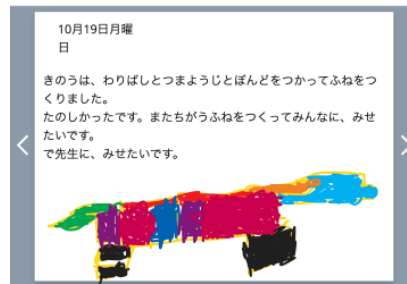
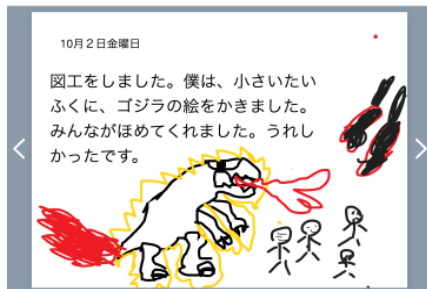
③ タブレットをA児が使うことをどう思いますか。

	6月	12月
使っていていいと思う	30人	36人
いいなあ	3人	0人
いやだ	1人	0人
ぼくも使いたい	1人	0人
よくわからない	1人	0人

- ・ 6月の調査では、A児のことをうらやましいと思う児童もいたが、12月の調査では、「勉強でつ

かったりするのはいいと思う。「がんばっているからいいと思う。」と肯定的な意見が多くみられた。必要な子が必要な道具を使うことに関して理解の意識が高まってきていると感じられる結果となった。

<児童の日記より>



みんながほめてくれました。うれしかったです。

認め合いからの満足感

またちがうふねをつかってみんなにみせたいです。

図工の作品をほめてもらえてうれしかったこと、(自信へのつながり)そしてまたみんなに見せたいという気持ち(出せる安心感)がうかがえる。

交流学級での日記提出では、苦手な漢字への負担軽減のため予測変換を導入した。結果左下のように、かなりの数の漢字を使っていた。選択肢があれば漢字が書けるということがわかったので、支援学級担任と連携し、漢字の活用力へつなげる学習を少しずつ進めている。そのような中で、作文に漢字を少しずつ使えるようになってきた。

<予測変換による日記の中で正しく使えていた漢字>

今日、昨日、図工、小さい、早い、絵、運動会、最後、1位、鹿児島、お風呂、宿題、見る、乗せる、カツ丼、東京、行く、最初、お金、お母さん、お姉ちゃん、家族、食べる、大根、白菜、先生、帰る、僕、一緒、ご飯、何回も、月～日曜日

<右の作文で使えている漢字>十年後、今、大きく、思う、3年、休み、切る、自分の名前

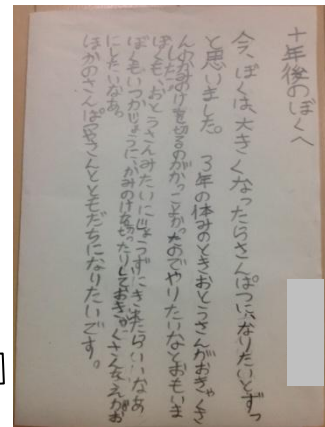
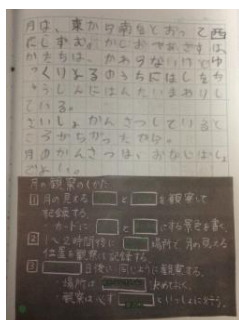


図13 作文「十年後のぼくへ」

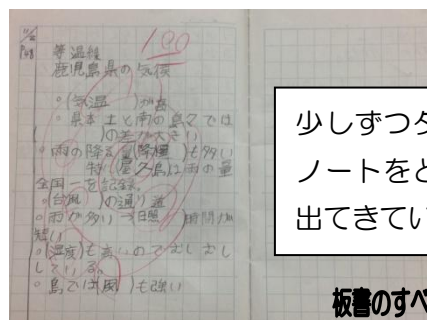
2について

iPadの穴埋め式ノートの併用から、自分でノートを取ろうとする意欲へとつながってきている。

<A児のノート>



(下部分穴埋め式)



少しずつタブレットなしでもノートをとろうとする意欲が出てきている。

板書のすべてを自分でとったノート

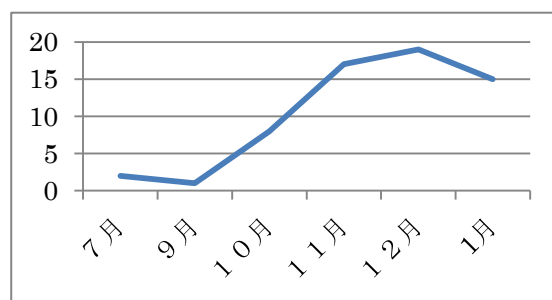
3について

忘れ物をする回数が減り、また、始業時間に間に合うことが多くなってきている。

交流学級で必要な物(体育服、図工の道具、理科、社会の教科書等)における忘れ物の回数



忘れ物の回数(回)	
9月	4
10月	2
11月	1
12月	2
1月	2



始業時間までに登校した日数

忘れ物に関しては、iPadで写真を撮り忘れなかった日は、必ず家庭では準備をしていくことができた。ただ、ノートのみ忘れることが数回あったので、もう一度、教科ごとに必要なものについて写真でも確認するようにした。登下校については、11月より支援学級担任や支援員と、3学期より母親と時間内に登校するようになり、ほぼ毎日始業時間に間に合うことができるようになっている。

○ 今後に向けて

- ・自分から友達に声をかけることに抵抗はなくなり友達とも仲良く遊んでいるが、けんかになった時には、教師のところへ聞きにくることがよくあるので、トラブルの解決法について一緒に考えさせていきたい。また、来年度の担任への引き継ぎもしっかり行いたい。
- ・学習内容の定着という面で、ワークシートの工夫や宿題の出し方なども支援学級担任と相談しながら行っていきたい。
- ・登下校については、支援学級担任は校門で待ち、A児はお母さんと一緒に校門まで登校することを続けている。親の方と今後について話し合っていきたい。